

2021年3月期 第1四半期 決算説明資料

- | | |
|------------|-----------------------|
| 1) 決算概要 | 6) トピックス |
| 2) 決算のポイント | 7) 減価償却費と研究開発費 |
| 3) 国内売上高 | 8) COVID-19感染拡大の影響 |
| 4) 海外売上高 | 9) 通期業績見通し |
| 5) 商品群別売上高 | [参考] 商品群別売上高見通し/為替の影響 |
| [参考] 内訳 | |



日本光電工業株式会社

銘柄コード: 6849

2020年8月4日

1) 決算概要

	2020/3 第1四半期	2021/3 第1四半期	増減率 (%)	(単位: 百万円、単位未満切捨て)
売上高	38,551	38,461	△ 0.2	
国内売上高	28,392	24,809	△ 12.6	
海外売上高	10,159	13,652	34.4	← 為替影響除く: +40%
売上総利益 (売上総利益率)	18,524 48.1%	19,428 50.5%	4.9	← 自社品 売上比率: 2020/3 Q1 62.5% → 2021/3 Q1 68.7%
営業利益 (営業利益率)	542 1.4%	1,831 4.8%	237.8	← 販管費率: 46.7% → 45.7%
経常利益	△ 26	1,581	—	← 為替差損: 6.4億円 → 4.3億円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△ 499	1,060	—	

平均レート	(2019/6)	(2020/6)
1米ドル	110.7円	107.9円
1ユーロ	123.5円	118.1円

- 売上高は0.2%減の384億円となりました。
- 国内売上高は、営業活動の自粛や、検査・手術の延期が影響し、12.6%減の248億円となりました。前年同期に新築移転の大口商談を受注した反動もありました。
- 海外売上高は、全ての地域で二桁成長となり、全体では34.4%増の136億円、現地通貨ベースでは、40%の増加となりました。新型コロナウイルス感染症患者の増加により、生体情報モニタ、人工呼吸器の需要が急増しました。
- 営業利益は、粗利率の改善と販管費の減少により、18億円と大幅な増益となりました。粗利率は、自社品比率が上昇したことから、50.5%となりました。50%台の回復は、2015年3月期第1四半期以来です。販管費は、営業活動の自粛や外出制限を受けて旅費交通費などが減少しました。
- 営業利益の大幅増益により、経常利益、純利益につきましても、黒字に転じることができました。
- 社内計画に対しましては、国内は計画どおりでしたが、海外は生体情報モニタ、人工呼吸器が大幅増収だったことから、計画を上回っています。営業利益につきましても、海外の売上が好調だったこと、粗利率が良化したことから、計画を上回りました。

2) 決算のポイント

売上高：前年同期比 0.2%減

- ・国内: 営業・サービス活動の自粛や検査・手術の延期が影響し減収。
大学、官公立病院市場における前年同期の新築移転に伴う大口商談の受注の反動減も響く。
- ・海外: 生体情報モニタ、人工呼吸器の需要が急増、全ての地域で二桁増収。

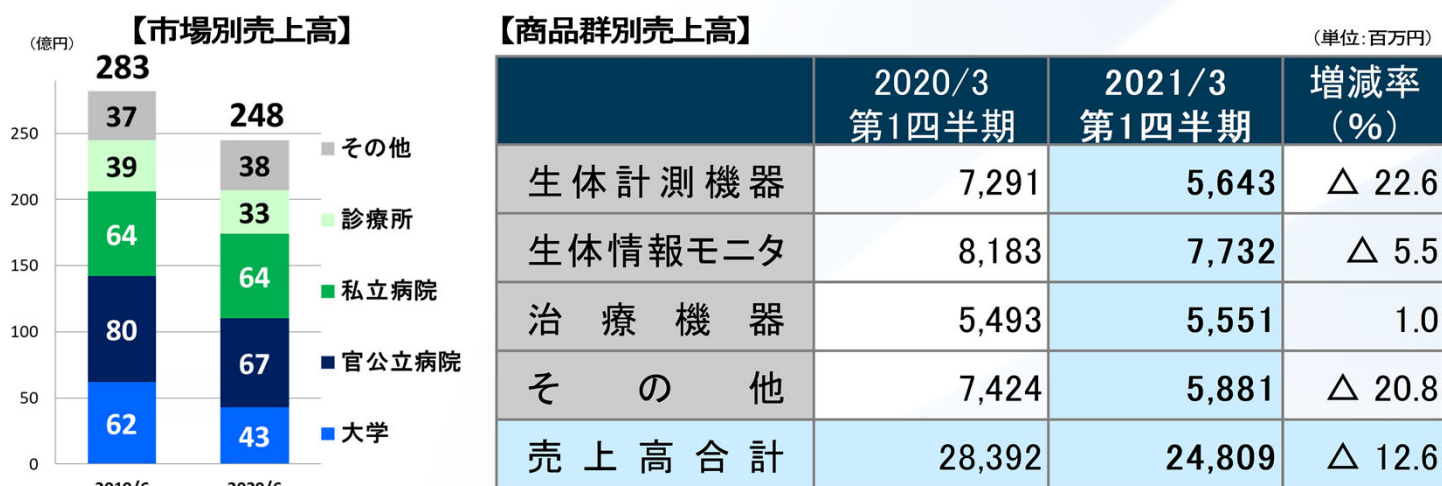
営業利益：前年同期比 237.8%増

- ・粗利率は、売上構成の良化により改善。2015/3 Q1以来の50%台回復。
- ・旅費交通費などの販管費が減少し、大幅増益。

経常利益：1,581百万円（前年同期は26百万円の経常損失）

純利益：1,060百万円（前年同期は499百万円の純損失）

3) 国内売上高



【市場別】 大学、官公立病院市場では、新築移転に伴う大口商談の受注があり好調だった前年同期から大幅減収。診療所市場も低調に推移。私立病院市場では前年同期並みの売上を確保。

【商品群別】 生体計測機器: 全ての商品が二桁減収。特に、心臓カテーテル検査装置群は、病院における検査・手術の延期が影響し低調に推移。生体情報モニタ: 前年同期が好調だった反動により臨床情報システム、ベッドサイドモニタが大幅減収。医用テレメータ、送信機は好調。治療機器: 人工呼吸器は、ハミルトン社製、自社製ともに大幅に伸長。AEDは、更新商談の受注もあり好調に推移。除細動器、ペースメーカー・ICDは減収。その他: 前年同期の大口商談の反動や営業・サービス活動自粛の影響により、現地仕入品、医療機器の設置工事が大幅減収。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

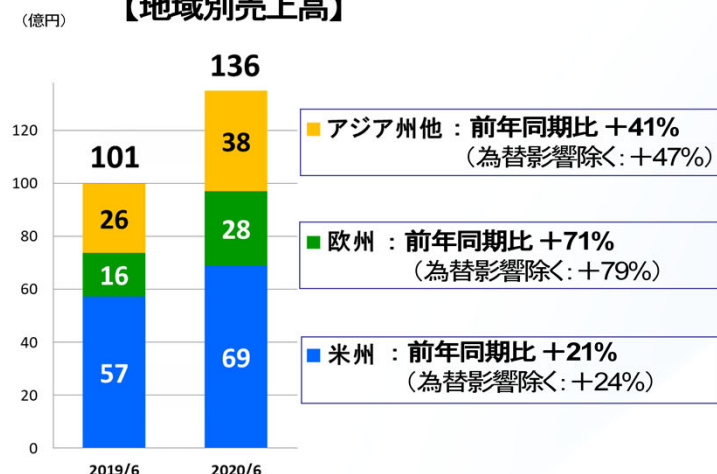
NIHON KOHDEN

3

- 国内売上高は35億円減の248億円となりました。
- 前年同期に大学、官公立病院市場において新築移転商談や消費税率引上げ前の予算執行の前倒しがありました。この反動減の影響が20億円程度あったと見ています。
- 新型コロナの影響については、感染症患者受け入れのための生体情報モニタ、人工呼吸器の需要はあったものの、営業・サービス活動の自粛や検査・手術の延期、買い控えの影響などにより、15億円程度のマイナス影響があったと見ています。
- 大学、官公立病院市場は、好調だった前年同期から二桁減となりました。検査・手術の延期によりカテーテルなどの消耗品が低調だったことや、訪問自粛により保守点検業務が延期となったことも影響しました。診療所市場では、営業活動自粛や買い控えが影響し、低調に推移しました。私立病院市場では、感染症患者を受け入れるための体制整備の動きもあり、前年同期並みを確保することができました。
- 生体計測機器、その他商品群は、営業・サービス活動の自粛や検査・手術の延期、買い控えの影響などにより、好調だった前年同期に比べ二桁減となりました。
- 生体情報モニタは、感染症患者受け入れのため医用テレメータ、送信機が好調に推移したものの、前年同期の大口商談の反動により、減収となりました。
- 治療機器では、除細動器、ペースメーカー・ICDは減収だったものの、人工呼吸器が大幅に伸長しました。AEDも、販売台数が増加し、増収となりました。第2四半期以降については民間企業での新規開拓を控えている影響が出てくると想定しています。

4) 海外売上高

【地域別売上高】



【海外売上高比率】

2020/3 第1四半期	2021/3 第1四半期
26.4%	35.5%

【商品群別売上高】

(単位:百万円)

	2020/3 第1四半期	2021/3 第1四半期	増減率 (%)
生体計測機器	1,899	1,698	△ 10.6
生体情報モニタ	5,215	7,650	46.7
治療機器	1,739	3,163	81.8
その他	1,304	1,139	△ 12.6
売上高合計	10,159	13,652	34.4

為替影響除く: +40%

【地域別】	米州:	米国、中南米ともに二桁成長。中南米では、ブラジル、メキシコが好調。
	欧州:	西欧諸国を中心に大幅増収。特に、イタリア、イギリスが好調。
	アジア州他:	中国が好調に推移したほか、ベトナム、カタールでの大口商談の受注が寄与。
【商品群別】	生体計測機器:	心電計群はアジア州他、欧州で好調に推移するも、脳神経系群が米国、中国で低調。
	生体情報モニタ:	全ての地域で二桁成長。特に、欧州、アジア州他での売上が倍増。
	治療機器:	人工呼吸器が全ての地域で大幅に伸長。除細動器はアジア州他、欧州で好調。AEDは全ての地域で需要が減少。
	その他:	血球計数器が全ての地域で前年同期を下回る。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

4

- 海外売上高は35億円増の136億円、現地通貨ベースでは40%増加しました。海外売上高比率は35.5%となりました。
- 米州では、米国、中南米ともに二桁成長となりました。中南米では、新型コロナ対応により、ブラジル、メキシコが好調でした。
- 欧州では、西欧諸国を中心に大幅増収となり、特にイタリア、イギリスが好調でした。
- アジア州では、中国が好調に推移したほか、ベトナム、カタールでは生体情報モニタの大口商談を受注しました。中国は現地通貨ベース、円ベースともに二桁成長となりました。中国は12月決算であり、上期は現地通貨ベースで一桁後半、円ベースで一桁前半と、伸びが鈍化する見通しです。感染拡大が収束傾向にあるため、生体情報モニタは下期の反動減が懸念されますが、需要回復が見込まれる脳波計、血球計数器の販促強化により、通期の計画達成を目指します。
- 生体情報モニタ、人工呼吸器が全ての地域で大幅な増収となりました。人工呼吸器では、前期に当社初の自社製品2機種を発売しましたが、特に重症患者向けの日本光電オレンジメッド製の需要が感染症患者の増加により急増しました。直観的で操作が簡単と病院での評判も非常に高く、今後の拡大が期待されます。
- 生体計測機器やAED、血球計数器については需要の減退や検査数の減少の影響により二桁減となりました。

5) 商品群別売上高

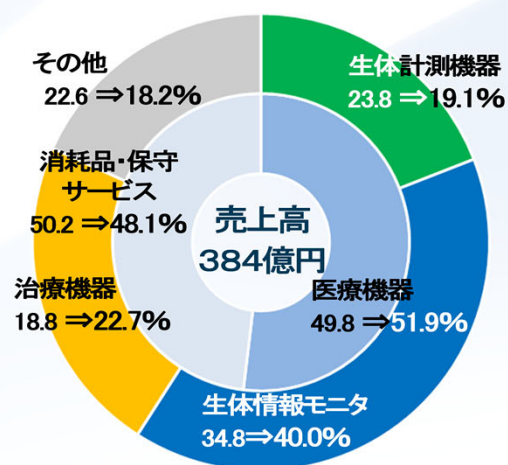
(単位:百万円)

	2020/3 第1四半期	2021/3 第1四半期	増減率 (%)
生体計測機器	9,191	7,342	△ 20.1
生体情報モニタ	13,398	15,382	14.8
治療機器	7,233	8,714	20.5
その他	8,728	7,021	△ 19.6
売上高合計	38,551	38,461	△ 0.2

(ご参考)

消耗品・保守サービス	19,342	18,502	△ 4.3
------------	--------	--------	-------

商品群別売上構成比
(2019/6 ⇒ 2020/6)



- 生体計測機器は前期比20.1%減の73億円、
生体情報モニタは14.8%増の153億円、
治療機器は20.5%増の87億円、
その他は19.6%減の70億円となりました。
- 消耗品・保守サービスは4.3%減となりました。国内において、検査・手術の延期によりカテーテルなどの消耗品が減収となったことに加え、サービス活動の自粛が影響しました。

[参考] 商品群別売上高の内訳

(単位:億円、単位未満切捨て)

生 体 計 測 機 器	2020/3 第1四半期	2021/3 第1四半期
脳 神 経 系 群	14	11
心 電 計 群	14	13
心臓カテーテル検査装置群	39	30
その他(診断情報システム等)※	23	17

※診断情報システムや他社製の生体計測機器を含みます。

治 療 機 器	2020/3 第1四半期	2021/3 第1四半期
医 科 向 け 除 細 動 器	11	12
A E D	31	30
ペ ー ス メ ー カ ・ I C D	8	6
人 工 呼 吸 器	7	24
そ の 他	14	12

そ の 他	2020/3 第1四半期	2021/3 第1四半期
検 体 検 査 装 置	20	21
画像診断装置、研究用機器他※	67	48

※他の商品群に分類されない、消耗品や設置工事・保守サービスを含みます。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

 NIHON KOHDEN

6

- 新型コロナの影響を大きく受けた商品としては、治療機器に含まれる人工呼吸器は17億円の増収となった一方、生体計測機器に含まれる心臓カテーテル検査装置群が9億円の減収、その他に含まれる画像診断装置他が19億円の減収となりました。国内では、自社品販売に注力する施策を続けており、画像診断装置などの現地仕入品については今後も抑制します。

6) トピックス - 米国でのシナジー強化

プレホスピタル～インホスピタル: COVID-19対応の製品・サービス提案を強化

In-hospital NEW! 2020年1月 米国発売 Protective Control™  Nihon Kohden OrangeMed	デュアルディスプレイで病室外から操作ができるため医療従事者の感染リスクを低減 人工呼吸器 NKV-550	双方向のオンライン教育プログラムを提供 オンライン教育プログラム NK University	Pre/In-hospital  NIHON KOHDEN™ UNIVERSITY AN EDUCATIONAL SERVICE OFFERING OF NIHON KOHDEN
Pre-hospital defibtech 	自動心臓マッサージ装置 Lifeline ARM 機械式の胸骨圧迫により、医療従事者の感染リスクを低減	エアウェイスコープ NK AWS-S200 モニタ画面を見ながらスムーズな気管挿管ができるため、医療従事者の感染リスクを低減	Pre/In-hospital NEW! 2017年9月 事業譲受 2020年7月 米国発売  ビデオ硬式挿管用喉頭鏡

**中位機種
ベッドサイドモニタ
の投入**

**製品サイバーセキュリティ
を強化**

**2020年内
米FDA再申請を目指す**

※在宅勤務により開発に若干の遅れ、
余裕を持ったスケジュールに見直し

- 2020年4月に米国事業本部を立ち上げ、日本光電アメリカ、デフィブテック、日本光電オレンジメッドなどの子会社間の連携強化を進めています。
- 2020年1月から、日本光電オレンジメッド製人工呼吸器を日本光電アメリカの直販チャンネルで販売しています。感染リスクを低減できる機能を持つ機器本体ですが、NKユニバーシティというオンライン教育プログラムも、機器の使い方が簡単に分かったと好評をいただいています。
- 感染症患者が増加する医療現場では、医療従事者の感染リスクをいかに減らすかが課題となっています。そのため、生体情報モニタや人工呼吸器に加えて、自動心臓マッサージ装置やエアウェイスコープといった製品の提案を強化しています。
- 中位機種ベッドサイドモニタにつきましては、再申請の時期を2020年内に変更しました。在宅勤務の推進により、サイバーセキュリティの対策機能の開発に若干の遅れが生じているため、余裕を持ったスケジュールに見直しています。当社のモニタリングソリューションのニーズは高く、既存モデルも競争力を維持しているため、業績への影響は軽微と見ています。

7) 減価償却費と研究開発費

(単位:百万円)

	2020/3 第1四半期	2021/3 第1四半期	増減額	2020/3 実績	2021/3 計画
減 価 償 却 費	785	722	△ 63	3,597	3,600
研 究 開 発 費	1,497	1,464	△ 33	6,731	7,000
			設備投資額	3,549	3,900

●2021/3設備投資計画

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、IT投資、工場生産設備(需要の増加に伴う人工呼吸器2機種・生体情報モニタの生産増強を含む)

<人工呼吸器・生体情報モニタの増産支援>

- 人工呼吸器の架台 1,000台供給
(本田技研工業)
- 人工呼吸器・生体情報モニタ 生産工程の改善指導
(TPS(トヨタ生産方式)支援チーム)



NKV-330

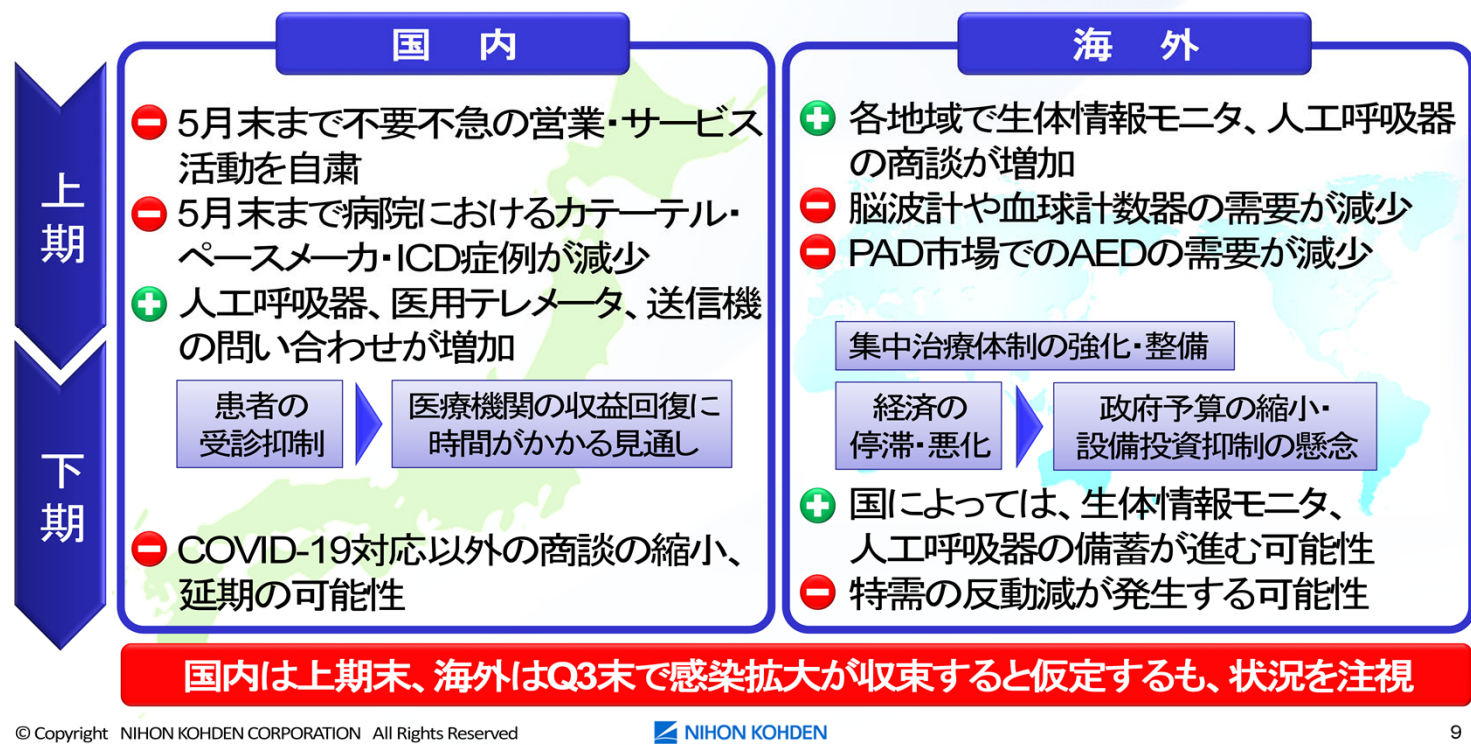


NKV-550



- 減価償却費は7億円となりました。計画どおりの進捗です。通期の減価償却費は36億円、設備投資は39億円に変更ありません。
- 研究開発費は前年同期並みの14億円となりました。ほぼ計画どおりの進捗であり、通期の研究開発費70億円に変更はありません。
- 富岡生産センタでは、需要増加に対応するため、人工呼吸器、生体情報モニタの増産を進めています。人工呼吸器の架台の生産を本田技研工業株式会社、生産効率の向上をTPS(トヨタ生産方式)支援チームにご支援いただきました。新型コロナウイルス感染症対策に尽力されている医療現場に少しでも早くお届けできるよう、取り組んでいます。

8) COVID-19感染拡大の影響



© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

9

- 新型コロナウイルスの業績への影響についてご説明します。
- 国内では、緊急事態宣言下において、不要不急の営業・サービス活動を自粛していました。病院では、検査・手術を延期していたため、カテーテル、ペースメーカー・ICDの症例数が減少しました。6月以降、徐々に再開しています。
- 補正予算がついたこともあり、人工呼吸器および医用テレメータ、送信機などの生体情報モニタに関する問合せは増加していますが、プラス影響は限定的と見ています。
- 医療機関は、患者の受診抑制や検査・入院・手術の延期により、厳しい経営状況となっています。6月以降、回復傾向にあります。特に診療所においては、患者数が元の水準まで戻らず経営が悪化しており、設備投資を控える傾向が続くと見ています。病院においても、経営状況が改善しなかった場合、新型コロナ対応以外の商談が縮小する、延期になる可能性があるかと見ています。
- 海外では、各国で生体情報モニタ、人工呼吸器の商談が増加しています。下期にかけても、重症患者の集中治療体制の整備が必要な国では、需要が見込まれます。
- 一方、脳波計や血球計数器、AEDの需要減少などの影響が出ています。
- 経済の停滞・悪化に伴う政府予算の縮小や設備投資の抑制が懸念されるほか、急激な需要増に対する反動減も想定されます。
- 新型コロナの影響については、感染拡大が一定期間で収束すると仮定していますが、足元の感染状況を踏まえますと、影響が想定よりも長引く可能性があり、予断を許さない状況です。

9) 通期業績見通し

	2020/3 実績	2021/3 予想	増減率 (%)	(単位:百万円)
売上高	185,007	180,000	△ 2.7	
国内売上高	134,355	126,200	△ 6.1	
海外売上高	50,651	53,800	6.2	← 為替影響除く: +9%
売上総利益 (売上総利益率)	89,325 48.3%	87,200 48.4%	△ 2.4	
営業利益 (営業利益率)	15,503 8.4%	14,000 7.8%	△ 9.7	
経常利益	14,846	14,000	△ 5.7	
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,854	10,000	1.5	
海外売上高比率	27.4%	29.9%		

【地域別海外売上高】

	2020/3 実績	2021/3 予想	増減率 (%)
米州	24,731	26,600	7.6
欧州	9,044	8,800	△ 2.7
アジア州他	16,876	18,400	9.0
海外計	50,651	53,800	6.2

※2021/3期から、アジア州とその他地域を合わせて、アジア州他としています。

- 第1四半期の実績は、売上高、営業利益ともに計画を上回って進捗していますが、通期の業績に占める第1四半期の割合が低いこと、感染の収束状況が不透明であることから、通期の業績予想に変更はありません。
- 上期の業績予想については、国内における補正予算の執行状況や検査・手術の再開、海外における経済活動制限下での納品作業の進捗など、不確定な要素が多いため、公表を見送っています。
- 現時点での見通しは、上期の売上高は第1四半期と同様、国内は二桁の減収、海外は二桁の増収と見ています。
- 国内では、前年同期に消費税率引上げ前の駆け込み需要があったことから、第2四半期は第1四半期よりも減収幅が広がると見ています。
- 海外では、米州、欧州は新型コロナの影響で引き続き好調に推移する見通しですが、アジア州他は、中国が感染収束傾向にあるなど、他の地域に比べて新型コロナの影響が小さく、伸び率は鈍化する見通しです。

[参考] 商品群別売上高見通し/為替の影響

	2020/3 実績	2021/3 予想	構成比(%)	増減率 (%)
生 体 計 測 機 器	42,273	37,200	20.7	△ 12.0
生 体 情 報 モ ニ タ	64,966	68,500	38.1	5.4
治 療 機 器	34,512	35,800	19.9	3.7
そ の 他	43,254	38,500	21.3	△ 11.0
売 上 高 合 計	185,007	180,000	100.0	△ 2.7

(ご参考)

消耗品・保守サービス	84,160	82,200	45.7	△ 2.3
------------	--------	--------	------	-------

平均レート

	2020/3 実績	2021/3 予想
1 米 ド ル	109.1円	107円
1 ユ ー ロ	121.1円	117円

為替感応度の概算値(年間)

	売上高	営業利益
1 米 ド ル	3.3億円	1.0億円
1 ユ ー ロ	0.6億円	0.2億円

- 通期の商品群別の売上高予想につきましても、変更はありません。

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

【担当部署】経営戦略統括部

【連絡先】Tel03-5996-8003